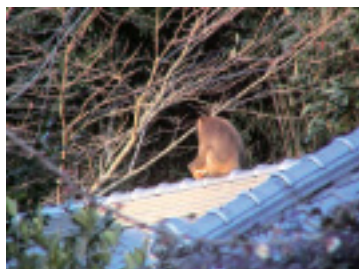
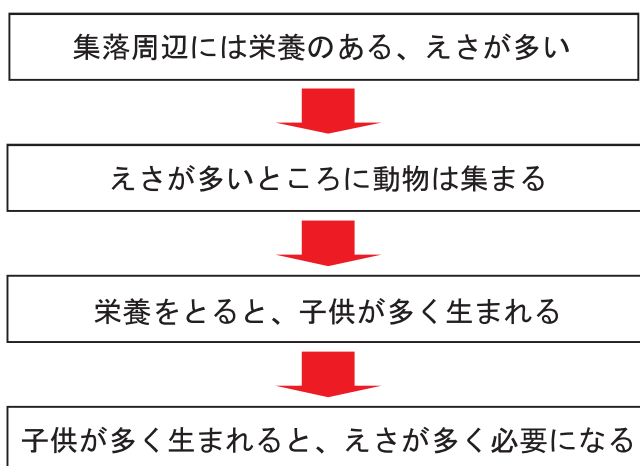


被害を受けない集落環境づくり



動物が被害を出す原因は、実はみなさんのなにげない行動が原因になっている場合があります。対策を実施する前に、周りの環境をチェックして、集落のみんなが被害を受けない環境づくりをしましょう。

なぜ集落にくるの？



動物が集落周辺で被害を出すようになるには、左のような流れがあります。つまり動物はえさのある集落に来て、子供を増やして、また被害を出しているのです。そのようにならないために、集落にあるえさを減らす必要があります。



身のまわりをチェックしよう！

あなたが動物を集落に呼び込んでいないかどうかチェックしてみましょう。

チェック項目	○×
冬なのに田んぼが青々としていたり、2番穂が出てそのままである	
野菜や果実のくずなどを田畑に捨てている	
お金にならない果樹などを放ってある	
利用されていない竹林がある	
耕作放棄地や、やぶが農地周辺にある	
動物を見ても特に何もしていない	

結果と対策

みなさん〇はいくつあったでしょうか。こういった環境を残しておく、動物が集落周辺にでできます。きちんと対策をして、動物にとって魅力のない地域にしていきましょう。



耕作放棄地

耕作放棄地は動物が大変好む場所です。隠れ場や、食物がある格好の場所です。

対策

きちんと草刈りなどをして隠れ場所にならないよう管理することが重要です。



二番穂やあぜの草など

動物は農作物がある時期にだけ来るわけではありません。収穫後に生える二番穂やあぜに生えている草は、えさの少ない冬場の動物にとって大変なごちそうとなります。

対策

早い段階で田おこしをして、二番穂を田んぼにすきこみましょう。また、一度だけではなく草が伸びたら何度でもすきこみ、草刈をすることが重要です。



果樹や竹林、放棄作物など

果樹や竹林に生えるたけのこ、なにげなく捨てている放棄作物なども動物にとっては大変なごちそうになります。

対策

利用されていない果樹や竹林は切りましょう。それが出来ない場合は、果実やたけのこを早めに収穫することが重要です。野外に作物などを捨てる場合は、埋めるなどして動物に利用されないようにしましょう。



動物を見ても何もしない

動物を見て何もしないと、そのうち馴れて、人を見ても怖がらなくなります。

対策

動物を見つけたら、みんなで追い払いをしましょう。



農地をしっかりと囲って守る

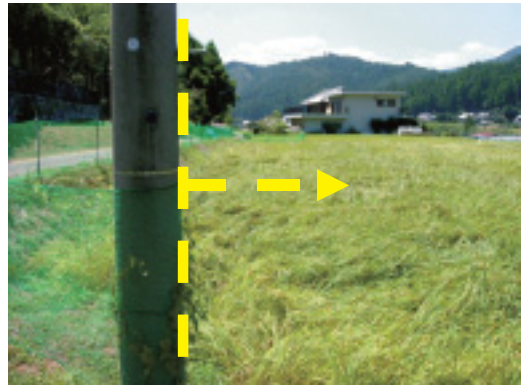


「柵を作ったのに被害が出た」ということをよく聞きます。しかし、よく見てみると設置方法が悪いために動物に入られていることがあります。被害をなくすためには、正しい方法で、きちんと農地を囲うことが一番のはやみちです。

共通してみられる失敗例

○部分的にしか囲っていない

ネットなどで、動物が出てくる方向しか囲っていないのをよく見かけます。この場合、動物は柵沿いに移動し、農地に侵入します。



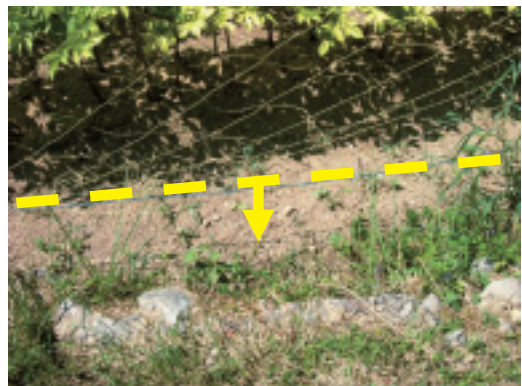
○高さが足りない

イノシシは、120cmまで飛び越す可能性があり、シカには2mの高さが必要です。せっかく四方をきちんと囲っても、高さが足りないと、動物はやすやすと柵を乗り越えて農地に侵入します。



○柵のつなぎ目や下にすきまがある

動物が防護柵を越えようとするときは、最初から飛び越えようとはせず、下のすきまなどから、もぐりこもうとします。こういったすきまがあることで、何度もそこから侵入しようと試み、すきまを広げて最後には農地に侵入します。



あなたの農地に適した方法は？

下のフローに従って進んでください。あなたの農地に適した方法が分かります。

